令和3年度　認定こども園さちよ「関係者評価」

園 名	認定こども園さちよ

基本方針	心身ともにたくましく　心豊かに生きる子どもの育成
めざす子ども像	・　あいさつをする子　　・元気よく外で遊ぶ子　　・進んで活動する子
重点目標	①基本的生活習慣の定着を図り、集団における望ましい態度を育てる。 ②身近な人や自然・地域との関わりを通し、直接体験活動を重視する。 ③園児の主体的な活動を促し、乳幼児期にふさわしい生活を展開する。 ④保護支援に努め、地域の子育て支援拠点として機能させる。
具体的目標	①園児の様々な気づきや心の動きに共感する指導に努める。 ②一人ひとりの居場所作りをし、個に寄り添った支援をする。 ③一人ひとりの特性や発達課題を捉え、特別支援教育を進める。 ④保育のねらいや生活の様子をきめ細かく家庭に伝える。（説明責任を果たす） ⑤園小の連携を推進し、小学校への滑らかな接続を図る。（学びの連続性）

自己評価結果（達成状況）

【A:達成している　B：概ね達成している　C:あまり達成していない　D：達成していない】

評価の観点	評価項目	取り組みの状況	達成状況	改善の方策	こども園関係者評価 関係者評価委員から
園運営	○職員の資質向上 ○組織体制の充実	○研修の充実を図った。 ・市教委の指導主事を招いて、園内公開保育を行った。 ・キャリアアップ研修やオンライン研修に参加して、資質向上に努めた。 ・研修での学びを職員会で共有した。	B	・園内研修の機会を充実させ、身近な実践事例を通して、活動のねらいをより具体的に持ち、職員同士が学び合う機会を増やす。 ・資質向上に繋がる研修に積極的に参加し、共有する。	・アンケートの結果が９４％と非常に高く、園に関心を持ってもらっていることが伺える。・膨大な仕事量の中、保護者の意見を謙虚に聞いて園の方針を伝えており、先生達がストレスにならないか心配である。
教育課程	○教育・保育課程の作成 ○指導計画の作成・反省 ○発達過程に応じた教育・保育 ○環境を通して行う教育・保育	○認定こども園教育保育要領に示されたねらい内容を取り入れて編成を行う。 ・指導計画を見直し、無駄を省き、子どもと向き合える時間確保や遊び込める環境作りに努めた。	B	・各学年の発達に応じた保育・教育に取り組み、０歳児から５歳児での繋がりを大切にする。 ・色々な経験・体験を通し、子ども達の気持ちに寄り添いながら遊びこめる環境作りに努める。	・コロナ禍でも先生達の見守りの中、幼稚園部では外遊びや散歩等、身体を使った遊びや保育園部では家庭的な温かい保育等、年齢に応じた保育をされており嬉しく思う。
子育て支援	○親子の育ち合いの場としての役割や機能の充実 ・すくすくひろば開設、子育て相談、講座等の開設	○「すくすくひろば」を年96回実施した。 ・緊急事態宣言やまん延防止重点措置期間中は、電話訪問により、育児の悩みや家庭での様子を尋ねて、相談しやすい雰囲気作りをした。 ・よい子ネット登録により、園の様子を知ってもらい、安心して入園できるようにした。	A	・保護者と園が同じ方向性で進めるように園だよりやよい子ネットで保護者の教育力が高まるような情報発信に努めるようにする。・すくすくひろば利用の保護者に限らず、園児の保護者に寄り添い、それぞれの状況に合わせた支援を受けられるように相談しやすい体制を取る。	・入園前に園と関われることはとても良いことだと思う。また、困った時に一時預かりをしてもらえる等、手厚いサポートがあって保護者は助かる。・コロナ感染者が出た時には、学級閉鎖や閉園があると仕事をしている保護者は大変困るが、園を開けてもらったことは本当に助かった。先生方の努力、協力にとても有難かった。
安全管理 保健管理	○園舎の安全、安心確保 ・園舎や遊具の安全点検及び管理 ○職員の危機管理能力の向上 ・防災訓練の実施 ○交通安全指導の推進 ○健康観察、健康診断、歯科検診の実施	○コロナ禍にあり、衛生面や熱中症対策等、園児が安全に過ごせる環境作りに努めた。 ○AED研修やプール監視のビデオを見て、危機管理意識を高め、監視の徹底を行った。 ○総合避難訓練や消防点検時に防災についての指導を受け、全職員で共有した。 ○交通安全教室については、緊急事態宣言中で行えなかったが、各クラスで保育教諭より約束を聞いたり、園外保育時に交通ルールを守りながら実施した。　○園児の健康管理に努めた。 ・看護師や医師による園内研修を行い、健康や衛生面に簡する知識やマニュアルを身に付けた。	B	・子ども達にも分かりやすいように感染予防の大切さを伝えていく。 ・毎月の避難訓練の内容を工夫し、あらゆる場で状況判断し、行動に移すことができるように危機管理意識を高めていく。 ・交通ルールについては、その都度約束事を確認すると共に散歩コースにも十分に気を付ける。 ・園での感染予防を保護者に知らせるとともにコロナ禍の新生活様式に合わせて環境を整え、安全・安心に過ごせる取り組みをしていく。	・毎月、災害時の避難訓練や不審者対応訓練等、されていることは園児を預けている中で安心感に繋がる。 ・災害時のマニュアルをしっかり活用することが必要である。　・園での感染予防対策は十分にしてもらっている。
特別支援教育	○一人ひとりの特性や発達課題に応じた支援計画の作成と実施 ○専門機関、教育機関との連携 ○途切れない支援の推進 ・家庭との連携 ・小学校との連携	○特別コーディネーターを中心に個々の園児にあった支援の方法を探った。 ・専門機関との連携を図りながら、支援を要する園児と一緒に専門機関に出向き、よりきめ細やかな支援に繋げた。 ・面談の中で保護者の思いを聞き取り、小学校や関係機関に繋ぐことで安心して就学できるようにした。 ・小学校の教諭が来園し、園児の様子を見てもらう機会を設けた。	A	・一人ひとりの園児に対して、実態把握を行い、困り感に対して、より具体的な支援方法を協議し、発達段階に応じたきめ細やかな支援に繋げる。 ・小学校や関係機関との打ち合わせを通して、保護者の思いを大切にする。 ・支援を要する園児について全職員が共有し、同じ関わり方をしていく。	・以前に比べると大分手厚い支援をしてもらっていると思う。今年度の取り組みは、反省を踏まえて行い、次年度の方策は、具体性をもっと踏み込んでほしい。
家庭・地域　他校種との連携	○信頼される園作り ・情報の発信・受信 ・園行事への積極的な参加の推進 ○小学校との連携 ・互いの学びの場となる計画的な交流 ○地域とのつながり	○今年度もコロナ禍での感染予防対策により、行事の縮小、参観の中止等、保護者が来園される機会が減少したが、個人情報に留意しながら、よい子ネットでの情報発信に努めた。 ・園の取り組みや子どもの様子を具体的に知らせることにより、園の教育・保育を理解してもらう機会とした。 ○小学校との交流 ・登校練習（５回）や１年生、５年生との交流により、就学への不安をなくし、期待を膨らませるようにした。 ・園小合同の打ち合わせの会議を実施した。　○地域との交流 ・さつまいもや黒豆の苗植えや収穫を地域でさせていただき、収穫後は、園に招待してお礼の会を行った。	B	・信頼される園作りの為に、園での防災や感染症対策について、保護者に分かりやすく伝え、理解や協力を得るように努めていく。　・引き続き、よい子ネット、園だより、HP、クラスだより等で、園の取組や子どもの様子を具体的に知らせていく。 ・小学校との園小連絡会を持ち、計画を立てて交流を行う。その後、反省会を持ち来年度へ繋げていく。 ・一つひとつの行事を終えた後、反省点をまとめ、振り返ることで次に向けての改善策を検討していく。　・地域の中の園であることを受け止め、繋がりを通して、子ども達にも地域の方の温かさを伝え伝承していく。また、感謝の気持ちを言葉で表現し、地元を愛する「さちよっ子」を育成していく。	・１年生になると環境が変わって慣れるまでに時間がかかる。ボランティアで登校後、下駄箱から教室へ行くまでの見守りを依頼されたが、毎日同じことの繰り返しだが、中々覚えられない子、時間がかかる子、身の回りのことが出来ない子が多い。小学校との交流を通して雰囲気に慣れる機会を多く持つことが大切。3月中に園小連絡会を持つことが大切ではないか？・保護者アンケートの中で家庭でしなければならないことを園に任せていることがある。園に甘えることなく、家庭で教育することが必要である。・次年度も自治会を中心に園周辺の草刈りを計画している。地域としてできることはしていきたい。

こども園関係者評価のまとめ

園でのコロナ感染予防は、十分にされている。感染者が出てもクラスターにならず抑えられたのは、職員の努力のお蔭と感謝する。先生達のお蔭で集団生活の中で安全に過ごせている。仕事をしている保護者にとって園が閉園になることはとても辛いことだが、色々考慮した中で保育をしてもらい助かった。保護者が園へ要望を言うことも多いが、家庭ですることまで園に甘えすぎている。職員のストレスになっていないか心配である。保護者会として保護者にしっかりと伝えていく。

園関係者評価を受けての次年度の改善の方向性について

・引き続き、感染予防対策の徹底を行い、園児や保護者の安全・安心に繋げていく。

・園小連携（園小交流や職員間の連携）をしっかりと持ち、スムーズな就学に繋げてい

・家庭や地域との連携を大切にし、こども園の信頼に繋げていく。

令和4年3月4日

園名　認定こども園さちよ

園長　　芦田　淳子　　印